

新規就農者の育成

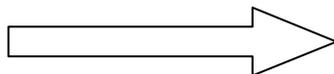
要約

就農希望者には、技術の習得や営農地の確保、資金調達を含めた就農計画作成等の支援を行い、就農後は栽培技術講座や交流会を開催し、併せて巡回指導を行うことで、技術向上と仲間づくりの支援を行った。これにより新たな就農者を10名確保することができた。

また、POP作成講座では、直売所を主要な販売先として活用している新規就農者が手軽に取り組める販売戦略のひとつとして、効果的なPOPの作成方法を習得することができた。

現状(背景)と課題

- 新規就農者が増え、担い手として期待が高まっている。
【H27新規就農者 14名】
- 就農希望者の多くが、農地・資金・技術・経営ノウハウ等が不足している。
- 就農後は、より速やかな課題解決により、経営安定させる必要がある。
【H28当初 指導対象者 52名】



目標

- 新規就農者の確保：8名

実績

- 新規就農者の確保：10名

活動内容

- 就農希望者に対して、関係機関と連携して技術・農地・資金確保とあわせ、就農5年目までの就農計画作成を支援した。
- 就農後は、主な品目ごとに少人数制の栽培技術講座を開催して技術習得支援するとともに、担当者をつけて定期的な巡回による現地指導を行った。
- 直売所に出荷している者を対象に売り上げアップにつながるPOP作成講座を開催した。

成果

- 新規就農者10名、就農計画認定：11名
- 栽培技術講座：イチゴ4回、ブドウ・イチジク・土づくりを各1回開催、延べ78名参加
- 巡回指導：就農時45歳未満もしくは認定就農者で、就農から5年未満の60名(52名+28年度途中に就農した8名)
- 現地見学会と意見交換会：11名参加
- POP作成講座：17名参加



栽培技術講座の様子



現地見学会の様子



POP作成講座の様子

中部農林振興事務所農林普及課
担当：担い手・農地マネジメント係 森岡

普及活動のポイント

- ・就農相談活動は、相談者の状況にあわせた個別対応とし、内容や進捗状況に応じて関係機関との連携を密にした。
- ・指導対象とした新規就農者には担当者が継続して巡回を行い、係内で個々の営農状況や課題などの情報を共有した。また、問題点があれば、栽培技術講座で取り上げた。
- ・講座や現地見学会などの集合研修開催時には新規就農者相互に情報交換ができるように配慮した。

対象の変化

- ・就農希望者のうち新たに10名が就農し、営農を開始した。
- ・栽培技術講座や巡回指導等を通じて、技術向上が図られている。
- ・POP作成講座で作成したPOPを後日参加者が実際に使用したところ、販売促進効果を実感することができた。

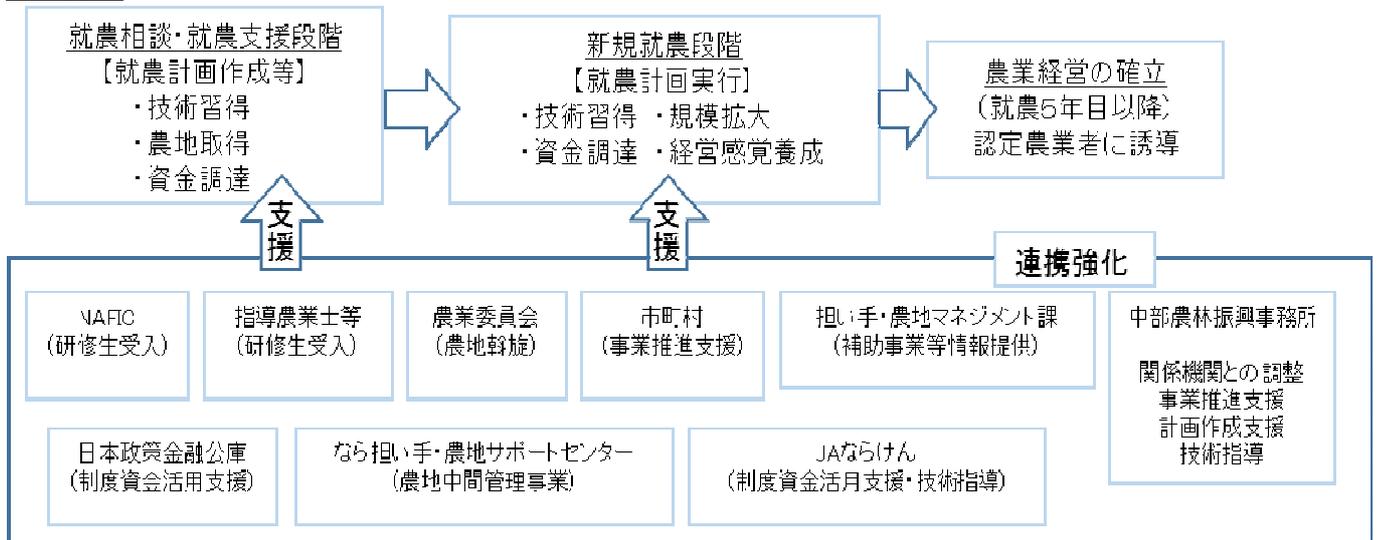
対象者からのコメント

- ・イチゴ技術講座は作業時期ごとに開催されたので、理解しやすく、すぐ活用することができた。
- ・現地見学会と合わせて開催された意見交換会では、横のつながりづくりができた。
- ・POP作成講座ではPOP文字の書き方や作成のコツがわかり、早速直売所で活用できた。

これからの活動ビジョン

- ・より効率的な就農支援を行うため、関係機関との連携を一層強化。
- ・規模拡大や経営安定に必要な雇用導入のため、労務管理や法人化等に関する講座の開催。

活動体制



用語解説

新規就農者

就農後5年未満の者。特に45歳未満で就農したか、青年等就農計画等を作成・認定された人を指導対象とした。

POP (ぽっぷ)

商品名や価格、キャッチコピーやイラストなどを描いて顧客にアピールするための広告媒体のひとつ。紙を媒体にして手書きで作成することができ、手軽に取り組める。